

平成20年度 普及に移す農業技術（第1回）

- [分類] 普及技術
[成果名] キャベツ株腐病防除にアミスター20フロアブルが有効である。
[要約] キャベツ株腐病防除にアミスター20フロアブルの2,000倍液を散布する。連用は避け作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。
[担当] 野菜花き試験場佐久支場
[部会] 病虫部会

1 背景・ねらい

キャベツ株腐病は生産現場では常発する重要病害である。本病を防除するため効果の高い薬剤を選定するとともに、キャベツに対する薬害の有無を検討する。

2 成果の内容・特徴

(1) キャベツ株腐病の防除に、アミスター20フロアブルの2,000倍液を散布する。

農薬登録内容

アミスター20フロアブル

[一般名及び成分含有量] アゾキシストロビン 20.0%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] B類

[対象作物に対する適用登録状況（平成20年9月16日現在JPPネット確認）]

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法	アゾキシストロビンを含む農薬の総使用回数
キャベツ	菌核病 株腐病	2,000	収穫7日 前まで	4回以内	散布	4回以内

3 利用上の留意点

(1) 薬剤における注意事項

ア 散布は、結球始期から予防的に実施する。

イ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、連用は避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。

ウ 浸透性を高める展着剤（ニーズ、アプローチB I、ミックスパワー等）を添加すると薬害を生ずる場合があるので添加しない。

エ 幼苗期の非結球レタスに対して薬害を生じる恐れがあるので、付近にある場合はかからないように注意する。

オ りんごの一部品種（シナノレッド、あかね、旭、きざし、ガラ）に薬害を起こすので、飛散等により散布液がかからないよう十分注意する。また、本剤を使用した散布器具やタンクを用いて、これらりんご品種へ薬剤散布しない。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) アミスター20フロアブルのキャベツ株腐病に対する防除効果について、平成18年および平成19年に佐久支場内ほ場において試験を実施した。平成18年は多発生、19年は中発生条件下での試験となった。アミスター20フロアブルの2,000倍液は、対照薬剤のバリダシン液剤5と比較して平成18年度は優る防除効果であり、19年度はほぼ同等であった。また、薬害は認められなかった（表1、2）。

表1 アミスター20フロアブルのキャベツ株腐病に対する防除効果（平成18年、佐久支場）

供試薬剤	希積 倍数	調 査 株 数	発病株 率(%)	発病度	防除価	薬害
アミスター20フロアブル	2000	30.0	3.3	1.1	98.6	なし
バリダシン液剤5	800	30.0	54.4	20.8	73.4	なし
無処理	—	30.0	94.5	78.1		

値は3反復の平均値

試験場所：小諸市山浦 場内圃場 発生状況：多発生 品種：信州868
 定植：4月24日 栽植距離：畦幅45cm、株間35cm 区制・面積：1区15.8m² 90株/区 3連制
 処理方法：平成18年6月6日（結球始期）、13日、20日および27日の4回、所定量の薬液（Sハッテンの10,000倍加用）を背負式動力噴霧器を用いて10aあたり300リットル散布した。
 調査方法：7月6日（最終散布9日後、収穫期）に、各区30株について発病の有無および発病程度を調査した。

発病指数 0：発病を認めない 1：外葉の一部に発病
 2：外葉の3枚以上に発病 3：外葉だけでなく結球葉にまで発病する

$$\text{発病度} = \left(\frac{\sum (\text{発病指数} \times \text{株数})}{(\text{調査株数} \times 3)} \right) \times 100$$

$$\text{防除価} = 100 - \left(\frac{\text{処理区発病度}}{\text{無処理区発病度}} \times 100 \right)$$

表2 アミスター20フロアブルのキャベツ株腐病に対する防除効果（平成19年、佐久支場）

供試薬剤	希積 倍数	調 査 株 数	発病株 率(%)	発病度	防除価	薬害
アミスター20フロアブル	2000	30.0	1.1	0.4	99.4	なし
バリダシン液剤5	800	30.0	3.3	1.1	98.4	なし
無処理	—	30.0	78.9	69.6		

値は3反復の平均値

試験場所：小諸市山浦 場内圃場 発生状況：中発生 品種：信州868
 定植：4月23日 栽植距離：畦幅50cm、株間35cm 区制・面積：1区12.6m² 72株/区 3連制
 処理方法：平成19年6月8日（結球始期）、16日、22日および28日の4回、所定量の薬液（Sハッテンの10,000倍加用）を背負式動力噴霧器を用いて10aあたり300リットル散布した。
 調査方法：7月6日（最終散布8日後、収穫期）に、各区30株について発病の有無および発病程度を調査した。薬害は肉眼観察によった。発病程度調査基準は表1と同じ。

6 特記事項

[公開] 制限なし

[課題名、研究期間、予算区分]

東信地域の作物に対する病害虫防除試験、平成18年、19年（2006年、2007年）、県単素材開発